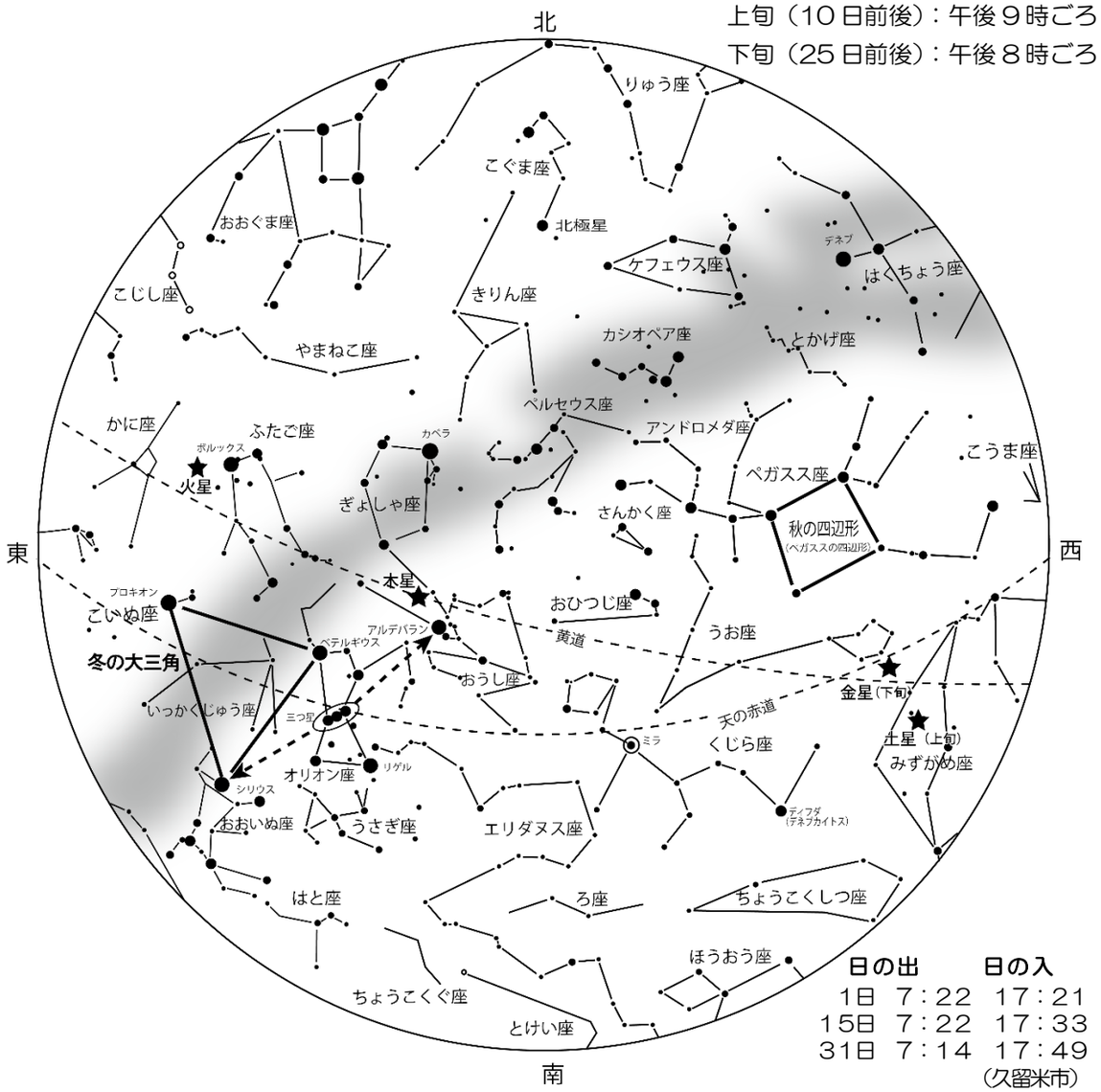
令和７年　１月の星空さんぽ☆ガイド　～ほしを眺めてみませんか～

福岡県青少年科学館

上旬（10 日前後）：午後９時ごろ
下旬（25 日前後）：午後８時ごろ



日の出	日の入
1日　7：22	17：21
15日　7：22	17：33
31日　7：14	17：49

（久留米市）

★1 月の星空案内

新年明けましておめでとうございます。今年も美しい星空に、たくさん出会えますように☆

１月の冬の星座探しは、**オリオン座**を見つけるところからスタートしましょう。オリオン座は等間隔に並んだ３つの星“**三つ星**”と、それを取り囲む明るい4つの星がつくる砂時計のような星の並びを目印に、見つけることができます。左上の赤い星は1等星の**ベテルギウス**、右下の青白い星は1等星の**リゲル**。三つ星を挟んだ色の対比がとても美しく見えます。次に、オリオン座の“三つ星”をつないだ線を南東（左下）にのばしていくと、１等星の**シリウス**が見つかります。シリウスは星座を形づくる星の中で最も明るい星です。このシリウスを目印に見つけることができる星座が**おおいぬ座**です。そして、シリウスから目線を北東（左上）に移すと、1等星の**プロキオン**が見つかります。このプロキオンを目印に見つけることができる星座が**こいぬ座**です。オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンをむすんでできる三角形の星の並びは**『冬の大三角』**とよばれ、街明かりのあるところでも見つけることができます。また、オリオン座の“三つ星”をつないだ線を北西（右上）にのばしていくと、ここにはオレンジ色に輝く１等星の**アルデバラン**が見つかります。このアルデバランとVの字の星の並びを目印に見つけることができる星座が**おうし座**です。そして、おうし座の近くで鋭く輝く星は木星です。木星は瞬かずに輝き、アルデバランより明るく輝いています。

【 惑星の見え方 】　（☆マークは、今月のおすすめです。）

水星（ - 0.3 等前後）	：へびつかい座→やぎ座	観望に適さない。
☆金星（ - 4.6 等前後）	：みずがめ座→うお座	日の入り後、南西の空で輝く。
☆火星（ - 1.4 等前後）	：かに座→ふたご座	真夜中、南の高い空で輝く。
☆木星（ - 2.6等前後）	：おうし座付近	真夜中、南から西の空高くで輝く。
☆土星（ 1.1 等前後）	：みずがめ座付近	宵の頃、南西から西の低空で輝く。

2025 年　注目の天文現象（まとめ）

□　１月１２日：火星最接近（２２時３７分）
□　３月１４日：皆既月食
（日本では一部の地域で部分食になった月が昇ってくる月出帯食が見られる）
□　３月２４日：土星の環の消失（地球から見て環の傾きが０°になる）※　太陽付近にあるため観望は難しい
□　３月２９日：部分日食（日本では見られない。カナダ、北大西洋、ヨーロッパなどで見られる）
□　５月　７日：土星の環の消失（太陽から見て環の傾きが０°になる）※　日の出１時間前、高度１１°
□　８月１２日：金星と木星が接近
□　８月１３日：ペルセウス座流星群（見ごろは１２日の深夜から１３日の明け方）
□　９月　８日：皆既月食（８日未明から明け方にかけて）
□　９月２２日：部分日食（日本では見られない。ニュージーランド、南極などで見られる）
□１０月　６日：中秋の名月（十五夜）
□１１月２５日：土星の環の消失（土星の環がほぼ消失し、見えなくなる）※　宵の南の空で輝く
□１２月１４日：ふたご座流星群（見ごろは１４日宵から１５日未明）

２０２５年に注目したい天文現象、一つ目は2年2か月ぶりの火星最接近（１月１２日）。火星は６月末まで１等級以上の明るさを保ち、目を引きます。星座を形づくる星の中で最も明るいシリウスと明るさを競う、真っ赤な火星に注目です。二つ目は１６年ぶりの土星の環の消失（３月２４日、５月７日、１１月２５日）。３月と5月は、観測条件があまりよくありませんが、環がほぼ真横を向く１１月２５日頃は、観測条件は最良でしょう。そして三つ目は、３年ぶりに全行程が観測できる皆既月食（９月８日の未明から明け方にかけて）。全国各地で食の全行程を見ることができる、注目のイベントです。今年も、見逃せない天文現象がたくさん！ワクワクしますね～！

日	曜	天　文　現　象	日	曜	天　文　現　象
4	土	しぶんぎ座流星群が極大（0 時ごろ） ※出現期間１月１日～7 日】	14	火	○　満　月　（07：27）
			19	日	金星と土星が最接近（03：11）
7	火	◐　上　弦　（08：56）	22	水	◑　下　弦　（05：31）
12	日	火星と地球が最接近（22：37）	29	水	●　新　月　（21：36）